

## 様々な変化や危機に柔軟に対応できる学校組織とは

## 令和5年度第1回中丹はぐくみたい力育成会議

7月10日(月)、中丹管内の小・中学校の副校長・教頭を対象に、中丹はぐくみたい力育成会議を実施しました。本会議は、中丹教育局の取組の重点である「魅力ある学校づくり」を推進するため、管理職として広い視野を持ち、学校の不易と流行を見極めながら児童生徒にはぐくみたい力を育成するための校内体制を構築することを目的としています。今回は、「複雑で予測困難な時代」と言われる現代に必要な学校危機管理の在り方について、学校組織レジリエンスの視点から考えを深めました。



福知山公立大学  
地域経営学部准教授  
福畠 真治 様

## 局長あいさつ

## 本年度の中丹教育局 学校教育の取組の重点について

新しい中丹教育局コンセプト「豊かに学び続け 未来を拓く力をはぐくむ中丹の教育」には、「人生100年時代」において、主体的に楽しんで学び、目標に向かって粘り強く努力し、新しい時代を創造する人に育ってほしいという願いを込めています。各校で、このコンセプトを具現化する教育活動が進められますようお願いいたします。

あわせて、「学びのパスポート」や生徒指導提要も十分に活用いただき、子どもたちの将来を見据えることで、各発達段階に応じた学びがスパイラルに子どもたちに蓄積され、力になっていく指導をお願いします。

## 魅力ある学校づくりについて

教職員自身が意欲的に学び続け、失敗してもフォローされる体制、それにより教職員が安心して新たなことに挑戦できる雰囲気、このような組織であれば、教職員がやりがいを感じ、意欲的に教育に打ち込むことができ教育効果も高まります。また、新たな課題や想定外の事態等に対しても柔軟に対応できます。本日の会議で新たな視点を加え、魅力ある学校づくりにつながる、よりよい学校組織づくりに取り組まれることを期待します。



## まなび その1 ～講演から～

何が起きるか分からない時代だからこそ、多様性、関係性、冗長性のある組織マネジメントを

福畠准教授からは、「学校組織のレジリエンス(復元力、立ち直る力)」の観点から、変化や危機に柔軟に対応できる学校組織の在り方について講演いただきました。「学校組織のレジリエンス」は、R4.12.19 中教審答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」の「今後の改革の方向性」にある考え方です。ぜひご注目ください。

## レジリエンスの特徴

- ◆様々な変化に対応できるような【多様性】
- ◆変化に迅速かつ効率よく対応できる【関係性】
- ◆多少の変容でシステム・組織全体に深刻なダメージを受けない程度の【冗長性】

## Safety-IIという考え方

平時こそがうまくいっている状態と捉え、その状態がなぜ成立しているのかということに着目して組織マネジメントに生かす。

## まなび その2 ～研究協議から～

組織の強みに目を向け、「魅力的な職場づくり」をテーマに、リソースを生かした取組を設定する

魅力ある学校組織づくりを進めるためのリソース(資源、財産)を把握し、魅力的な職場づくり(例:「学び合える」「支え合える」等)に向けた目標に向け、現状の強みを生かした方針と取組について整理しました。

- 1 学校組織レジリエンスの学びを生かし、「複雑で予測困難な時代」であるからこそ、**困難に際しても柔軟に対応できる学校組織**を構築する。
- 2 様々な変化を敏感かつ前向きに受け止め、**生涯を通じて学び続けようとする教員**の意識を醸成し、魅力ある学校づくりを推進する。

まとめ

## &lt;参加者の感想より&gt;

平時をうまくいっている状態とし、なぜその状態が成立しているのかに着目するということができたが、実際の学校現場においても一見当たり前のように見えることも、多くの教師の頑張りによって日々の学校教育は支えられています。それらはまさに学校の持つリソースであり、自覚し評価することで強化することのできるものであるのではないかと思います。

通訳型リーダーは自分になるだけではなく、学校内に複数いることが望ましい。教務主任など学校の核になる教員が通訳型のリーダーとなるよう意識して人材育成をしていきたい。

私自身も経験を重ね、考え方や捉え方に偏りが出てきているのではないかと今回の研修で感じた。若い先生方にとって、正解を探すような業務を強いてしまっているのではないかと思います。今一度、相手の立場になって考え、それぞれに応じた関わりについて考えてみたい。

